

発掘速報展平城 2001「奈良の都を掘る」

平城宮発掘調査部が実施した発掘調査のうち、2000年度の成果を主体として、一部2001年度の成果も含めて速報展示したものです。11月13日～25日まで、平城宮跡資料館で実施しました。

展示は、遺跡展示と遺物展示に分かれます。遺跡展示は、平城宮では、第一次大極殿地区(315・316次)、平城京内では、左京三条一坊(314-17次)興福寺中金堂・回廊(325次)興福寺一乗院(317・321次)興福寺大乘院(317・321次)西隆寺(320・324次)です。発掘遺構の写真パネル、実測図、復原図などにより、わかりやすい展示をめざしました。

遺物展示は、第一次大極殿地区(315・316次)出土の木簡、一乗院(317・321次)出土の土器、瓦、銅工房関係遺物を展示しました。



速報展の観覧風景

とくに、生の木簡の展示は好評で、「難波津の歌」の一節を記した木簡はとりわけ人気を集め、くいいるように眺める姿が見られました。

木簡の展示にあたっては、期間の前半と後半で木簡を入れ替え、毎朝、夕に保存液の点検をおこないました。また、展示ケースには、紫外線測定器を設置し、展示環境のデータ採取に努めるなど、保存に万全を期しました。

この展示では、同時に「天平の貴族」と題して、奈良時代のファッションを復元した人形4体を展示しました。華麗な天平の衣装は、リアルな人形とあいまって、観覧者の目を楽しませました。これは、1988年に制作したもので、今回が、研究所での初披露となりました。

今回の展示に際しては、平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターの多大な協力を得ました。このような展示は、研究所が実施している種々の発掘調査の成果をまとめてご覧いただける機会ですので、今後も続けていく予定です。(文化財情報課)